



THE CHIBA OUT

放送大学千葉学習センター機関誌 第25号 平成31年3月30日発行 Newsletter of Chiba Study Center / Open University of Japan
編集発行 放送大学千葉学習センター 〒261-8586 千葉市美浜区若葉2丁目11番地 TEL.043(298)4367 FAX.043(298)4386

Vol. 25
30th Mar.2019



THE CHIBA OUT 2019.3



仏教儀礼を知る、考える、味わう

柴 佳世乃(千葉大学文学部教授) 初回 4/16(火)

▼募集人数:2名
▼初回:4月16日(火)13時～
▼日時:原則、毎月1回(行わない月もある)。火曜日の午後1時から、2時間程度
▼内容:今なお脈々と受け継がれ勤修されている法会・法要について、その内容や特色などを考えたり、古代・中世に行われていた仏教儀礼について考えを深めます。話題はもち

ろん文学や歴史にも及びます。参加者には、各自テーマを決めて、順に発表してもらいます。
▼受講条件など:古典文学や歴史に通じていなくても結構ですが、調べて発表してもらい、また議論しますので、興味関心を持っていることが大前提です。



きのこの科学

根田 仁(農研機構生研支援センター研究リーダー) 初回 4/14(日)

▼募集人数:20名程度
▼初回:4月14日(日)13:30～16:00
▼日時:原則として、月1回、主に日曜日あるいは土曜日
▼内容:きのこは、かびのなかま(菌類)で、自然界では有機物分解・菌根形成を行い、栄養を得ているとともに、生態系において重要な働きをしています。また、シイタケ、エノキタケなどの食用きのこは、多くの日本人に好まれ、その生産は農山村の経済をささえています。そして、昔から「きのこ狩り」を楽しむ人が多く、文化的な意義も大きい生き物です。近年は、人々の健康を増進する化学成分の研究・利用も行われています。このようなきのこの魅力について共に学んでみませんか?本ゼミは、体験重視ですので特別な基礎知識は必要ありません。共に体験し、

学びましょう。野外でのきのこなどの自然観察、研究機関・博物館訪問も予定しています。初回開講時に、参加者から、今年度のゼミ内容に関するご希望を伺いますので、まずは、参加され、ゼミ内容の企画自体に加わってみられませんか?なお、興味のある項目だけに参加いただくことも歓迎です。

▼受講条件など:野外観察の学外での活動や実験室で培養実験等も予定していますので、これらの活動に参加ご希望の方は学生保険への加入が必要です。初回に参加できなくても、定員以内であれば、いつからでも参加可能です。なお、学内で開催するゼミのみへの参加も歓迎です

▼その他:自由に楽しみながらミニゼミへ参加していただければ幸いです。

四季の植物観察と標本づくり

中村俊彦(東京大学大学院農学研究科農学特定支援員) 初回 4/24(水)

▼募集人数:3名
▼初回:4月24日(水)13時～
▼日時:毎月1～2回(原則として水曜日の13:30～16:00)
▼内容:南北に長い日本列島は、世界的に多種多様な植物が生育する地域です。そのなかでも特に房総半島とその周辺では、落葉広葉樹など北方の冷温帯系植物と常緑広葉樹など南方の暖温帯系植物とが出会い共存するきわめて豊かな植物相がみられます。このような植物を四季を通じてさまざまな場所で観察や調査をおこない、また写真撮影や標本づくりもしながら親しみ、学んでいきたいとおもいます。
▽観察対象:森林・樹木、サクラ、雑草・野草、イネ、コケ、海藻など
▽観察場所:大学構内、北総の里山・谷津田、東大本郷・弥生キャンパス、東大小

石川植物園・樹木園、千葉県立中央博物館本館・生態園、東京湾三番瀬など

▼受講条件など:学外での野外活動がありますので、参加ご希望の方は学生保険への加入が必要です。

ミニゼミ 受講生募集

4/6(土)16時受付開始

千葉学習センターでは、客員教員の専門分野をテーマに研究をすすめる少人数のゼミを開講しています。平成31年度の新規参加者の申し込みを4月6日(土)16時より受け付けます。事務室で配布する「ミニゼミ参加

申請」に必要事項を記入のうえ、千葉学習センター窓口へ提出するか、ファックスまたはメールにて送信ください。電話での受け付けは行なっていません。申請は先着順で受け付け、定員に達した時点で募集を締め切ります。受講

可否は担当教員に確認後、申請者に通知します。定員に達しなかったミニゼミは、引き続き申請を随時受け付けますので、お気軽に学習センターへ相談ください。

ヴァイオリンによる弦楽アンサンブルの楽しみ

伊藤 誠(埼玉大学教育学部教授) 初回 4/17(水)

▼募集人数:6名まで
▼初回:4月17日(水)11:00～
▼日時:基本的に水曜日(月ごと2回開催)
▼内容:ヴァイオリンの構え方、取り扱い方法から始まり、音程づくりの初歩はピチカート奏法(指で弦をはじく方法)で進めます。左手の型が身に付いてきた時点で、弓(ボーイング)を使って音を作っていきます。導入期の教材は「わらべうた」や「童謡」ですが、ただ楽譜どおりに演奏するだけでなく、簡単なアンサンブル(二重奏や三重奏)も取り入れて、楽し

く楽器に親しんで頂くことをねらいとしています。個別指導とアンサンブル指導を併用します。他の方の練習を聞くことも学習を深める意味で大切かと思えますので、時間のゆとりがある方は見学して下さい。
▼受講条件など:ヴァイオリン学習未経験の皆さんへ……大歓迎ですが、簡単な楽譜が読めることを条件とします。ご自分のヴァイオリンがある方は、ご持参ください。伊藤がお貸しできる楽器は4台しかありません。受講人数が多い場合は、譲り合ってお使い頂く

ことになりますので、この点ご承知置き下さい。
▼その他:初回(4月17日)に「組み分け」を行いますので、全員必ず出席して下さい。
11:00～12:30は3名、14:00～16:00は4名による合同ゼミです。月2回ずつのサイクルで行っていきま



公民館をめぐる現代的役割と課題

長澤成次(放送大学千葉学習センター所長) 初回 4/14(日)

▼募集人数:10名から15名
▼初回:4月25日(木)13:00からオリエンテーション
▼日時:原則、毎月1回、木曜日13:00～15:00
▼内容:公民館は、1946年(昭和21年)に当時の文部省が全国にその設置が呼びかけ、現在は、全国に約14000館、千葉県には約300の公民館が設置されて

いる。公民館は、図書館・博物館とならぶ社会教育施設であり、社会教育法にもとづいて設置・運営されている教育機関である。本ゼミでは、テキストを受講学生と読みながら、人々の学びを通して地域づくりをすすめる公民館の現代的役割と課題を探ることを目的とする。
▼受講条件など:①テキストを分担して発表してもらいますので、授業に参加するた

めには、予習等が必要です。②ゼミに継続して参加できる方。③テキストを使用しますので、テキスト購入代がかかります。
▼テキスト:①長澤成次編著『公民館で学ぶV いま、伝えたい地域が変わる学びの力』国土社、2018年。②長澤成次著『公民館はだれのもの住民の学びを通して自治を築く公共空間』自治体研究社、2016年、その他。

偏光顕微鏡で石を見る

廣井美邦(千葉大学名誉教授) 初回未定

▼募集人数:2名
▼初回:未定
▼日時:原則として、月1回、日曜日の午後
▼内容:足元にある石の研究は、約0.03mmの厚さの薄片を偏光顕微鏡で観察することによって大きく飛躍しました。肉眼やルーペでは分からない石の特徴がよく分かり、美しい世界が広がります。現在では、電子顕微鏡による観察も普通になりましたが、偏光顕微鏡観察の重要さは変わりません。そこで、このゼミでは、偏光顕微鏡による石の観察をもとに、それぞれの石

の生い立ちについて話し合います。また立川の国立極地研究所で南極の石や隕石に触れたり、千葉県立博物館を見学することも予定しています。
▼受講条件など:石の偏光顕微鏡観察は、専門科目(自然と環境)でも実施しますが、あまり時間が取れません。このゼミで、ゆっくりと石の偏光顕微鏡観察を楽しんでいただきたいと希望しています。石の観察の入門書としては、千葉県立中央博物館の高橋直樹さんと大木淳一さんによる「石ころ博士入門」(全農教・観察と発見シリーズ)があります(参考図書)。



Coming Soon

詳細がまとも次第お知らせします。タイトルは参考です。

宮野モモ子
(千葉大学名誉教授)

学位記授与式での第九合唱短期実技講座/日本歌曲を歌う

山本純ノ介
(千葉大学教育学部教授)

現代音楽の作曲技法と初級和声

和田 健
(千葉大学国際教養学部准教授)

身近な食文化から歴史と社会を観察する

関谷 昇
(千葉大学法政経学部教授)

政治と憲法を考える・現代社会を読み解く(平成30年度タイトル)

森山直人
(放送大学客員准教授)
(タイトル未定)

メールで申し込む場合は、氏名、学籍番号、担当講師名、受講動機を明記の上 chibagaku_soumu@ouj.ac.jp へ。なお窓口での受付を優先します。

イベロアメリカ地域文化研究

柳沼孝一郎(神田外語大学外国語学部教授) 初回 4/27(日)

▼募集人数:10～15名程度
▼初回:4月27日(土)10:00～14:00
▼日時:原則として月1回 土曜日

▼内容:イベリア半島にあるスペインとポルトガル、そしてメキシコ、キューバなどカリブ海域の国々、ペルーなどアンデス諸国、アルゼンチンなどのラプラタ諸国、さらにブラジルからなる地域を総称して「イベロアメリカ」といいます。当ミニゼミ「イベロアメリカ地域文化研究」では、①イベロアメリカ地域の歴史・文化・社会・宗教などについて、授業時間の前半(10:00～12:00)がイベリア両国、後半(12:00～14:00)がラテンアメリカ諸国について「世界遺産」を中心に映像を観ながら学びます。②新聞記事などを用いて現代のイベロアメリカ地域の諸問題について考えます。③日本と

イベロアメリカ地域、とりわけ日本とラテンアメリカ諸国の関係について学びます。

▼受講条件など:①テキストとして、関連の学術論文のコピーなど適宜プリントを配布します。②イベロアメリカ地域を理解するための参考図書・文献を随時紹介します。③ミニゼミ用のノートブックを用意ください。

▼その他:スペイン語はフランス語、イタリア語、ルーマニア語と同様に俗ラテン語から派生した言語で、これらを総称して「ロマンス語」といいます。スペイン語は、スペインをはじめラテンアメリカ、アフリカの赤道ギニアなど23の国々と地域、そしてアメリカ合衆国のヒスパニックの人々をふくめ、4億人を超える人々によって話されている言語で、英語、ロシア語、フランス語、中国語、アラビア語とならんで国連の公用語のひとつになっています。当ミニゼミではイベロアメリカ地域の世界をさまざまな観点から学びます。

